

(様式1)

令和7年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 066	提案機関名	神奈川県内水面漁業協同組合連合会
要望問題名 県人工産アユの出荷時の色付けについて		
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 アユを対象とした釣りをを行う組合員や遊漁者の人口は、最も多く、根強い人気があります。しかし、県人工生産アユの出荷時の体色は、天然魚に比較して青みがかったアユが多く、カワウ等に捕食される危険も有ります。 放流後は、保護色に変化するのとは明らかですが、放流する時点で、天然魚に近い体色にするための技術開発をお願いしたい。		
解決希望年限	① 1 年以内 ② 2 ～ 3 年以内 ③ 4 ～ 5 年以内 ④ 5 ～ 1 0 年以内	
対応を希望する研究機関名	① 農業技術センター ② 畜産技術センター ③ 水産技術センター ④ 自然環境保全センター	
備 考		

回答機関名	水産技術センター	担当部所	内水面試験場
対 応 区 分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 人工産アユの体色には飼育環境に影響され、餌、水槽色、水槽設置場所（屋内外）が関与すると言われています。餌は魚粉を主原料とする配合飼料で、その魚粉はイワシ類であり、このため青みがかると言われています。これを天然魚に近い体色にするには天然河川と同様に藻類を与える必要がありますが、水槽内に藻類を繁茂させ与えるしかなく、自ずと藻類の供給量は限定され、大量に人工飼育するためには配合飼料しかない現状です。このほか、環境としては、屋外で暗い色の水槽での飼育が体色改善される傾向があります。 放流後の体色変化試験として、令和4年に天然河川を網で仕切り人工産アユを畜養し、1週間後調査した結果、天然アユの体色のオリーブ色に変化するという知見も得られており、このような放流方法を試行するほか、放流場所においてカワウの食害をさせない方策も検討すべきと考えます。			
解決予定年限	① 1 年以内 ② 2 ～ 3 年以内 ③ 4 ～ 5 年以内 ④ 5 ～ 1 0 年以内		
備 考			